

有志舎の新刊です。2014年3月下旬発売

# 戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教

武内房司 (たけうち ふさじ) 編

A5判・ハードカバー・300ページ 本体価格 6,600円

同善社・世界紅卍字会・カオダイ教……

動乱の近代東アジアで登場した「越境」する民衆宗教の姿を明らかにする。

(目次)	
総説	武内房司
第I部 災害と民衆宗教	
一 明清民間教派の「避劫銀城」	曹新宇 (折原幸恵訳)
二 近代道教の終末論	ヴァンサン・ゴースール (梅川純代訳)
三 民間教派から慈善団体へ	小武海櫻子
四 世界紅卍字会の慈善観	宮田義矢
五 清末の災難における扶乩団体の慈善活動	王見川 (小武海櫻子訳)
六 中国紅十字会と清末民初の標章問題	篠崎守利
七 植民地台湾の震災	胎中千鶴
第II部 戦争と民衆宗教	
一 戦場の遺体	孫江
二 道義	范純武 (張士陽訳)
三 日本占領期香港におけるカトリックの救済活動	倉田明子
四 植民地朝鮮における仏法研究会の教理と活動	趙景達
五 先天道からカオダイ教へ	武内房司
六 「ホーおじさん教」と戦争の記憶	今井昭夫

<編者紹介> 1956年生まれ、学習院大学文学部教授

～版元から～

19世紀から20世紀という戦争と災害が東アジア・東南アジアを覆った時代、これらの地域には広範な民衆宗教の「越境」現象が生まれました。それは、地理的な意味での「越境」であると同時に、キリスト教など他宗教世界への「越境」をつうじて、新たな宗教が誕生していったのです。本書は、同善社・世界紅卍字会・カオダイ教などの民衆宗教の考察を通して、戦争と災害という近代を象徴する二つの契機のなかで、何がこれらの「越境」現象を生み出し、宗教に活性化と深化をもたらしたのか、その背景を探ります。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10、宝栄ビル403 (有)有志舎 電話:03-3511-6085

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	戦争・災害と近代東アジアの民衆宗教 武内房司 著	アジア史・宗教 (近代)
	ご担当	A5判・ハードカバー、300ページ 本体価格 6,600円	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様	新刊 ISBN978-4-903426-82-2 C3014	

ご注文は 有志舎 担当：永滝（ナガタキ）まで FAX：03-3511-8484

当社商品の取扱取次はトーハン・JRC・八木書店ですが、日販・大阪屋ほか、いずれの取次でも上記取次経由で送品します。なお、JRCからも同じ注文書が重複して送られた場合は、この弊社あての注文書だけをご返信下さい。